

2020年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1492200744	事業の開始年月日	平成29年10月1日
		指定年月日	平成29年10月1日
法人名	湘南乃えん株式会社		
事業所名	グループホームえん		
所在地	(251-0861) 神奈川県藤沢市大庭5137-1		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18名
		ユニット数	2 ユニット
自己評価作成日	令和3年1月19日	評価結果 市町村受理日	令和3年6月22日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/
----------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ禍の中でも、家庭的な雰囲気でも過ごして頂くと同時に、施設が自然に囲まれた環境にある為、感染予防・密に十分気をつけ散歩したり、外気に触れ合う機会を大切に行っています。また、ご入居者の重度化に伴い、医療との連携を強化しながら、身体状況の悪化の防止及び認知症の進行に重点を置いて取り組んでいます。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鵠沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和3年4月12日	評価機関 評価決定日	令和3年6月14日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

事業所は、JR東海道線「辻堂」駅からバスで「南センター前」または「舟地藏」下車、徒歩4分です。近隣に大庭城址公園や舟地藏公園があります。同一法人の通所介護事業所が隣接しています。運営法人は、毎年「介護研究発表大会」を行い、利用者に向き合って未来の福祉を「より良く」「さらに良く」していこうと取り組んでいます。

<優れている点>

管理者は「利用者が今までの生活ができるよう、認知症状の進行が緩やかになるよう、ちょっとした変化にも早く気付けるように」と職員に伝え、利用者が楽しく、出来る力を発揮して生き甲斐を持って過ごせるように、理念に沿った支援を実践しています。利用者の悩みや不安、家族からの情報以外の思いは1対1で接する機会に多く聞いています。言葉でのコミュニケーションが難しい人からは顔の表情や瞬き、筆談などから知るように努めています。知った思いは家族にも伝え、かなうよう一緒に考えています。ベトナムからの技能実習生が日々の業務で活躍しています。運営法人が1年半前に面接をし、日本語の資格をとり入国後講習を行った後に事業所に配属されています。

<工夫点>

身体拘束委員会を定期的に開催して身体拘束のない支援を実践しています。各フロアで職員2名ずつを委員とし、職員間で注意し合う土壌が育っています。不適切な事例があった場合は、委員会を開いて早急に本人と面談し、フロア会議で対応して職員の意識を喚起しています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホームえん
ユニット名	1 F さんご

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
		4, ほとんどない	
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えています。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
		○	3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	藤沢のえんの理念、3つのE nを大事に！を会議の際唱和し同じ方針に向かっている。	管理者は「利用者が今までの生活ができるよう、認知症状の進行が緩やかになるよう、ちょっとした変化にも早く気付けるように」と職員に伝え、理念に沿った支援を実践しています。会議や面談、日々の勤務で声をかけ、確認しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	自治会に加入している。昨年はコロナ禍の為行事等中止されている。	例年は、自治会や事業所のイベント、地域防災訓練、近隣中学生の職業体験、看護学生実習受け入れ、多様なボランティアの来訪など、多数の地域の人々との交流があります。今年度はコロナ禍のため、外部との交流は中止となっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	随時近隣の方、介護支援事業所等から相談を受けている。昨年はコロナ禍の為中学生の職場体験中止となっている。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	1回は行っていましたが、コロナ禍の為開催できていない。また、ご家族からの意見交換の場でもあったが、随時確認をしている。	例年、定期的に2ヶ月に1回開催しています。利用者の様子、活動状況や運営状況の報告、意見交換などを行っています。また、実際の利用者の様子を見てもらったり、認知症のことなど心配事の話の聞いたりするなど、有意義な会議となっています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	コロナ禍の為、グループホーム連絡会は開催していないが、何かあった際は連絡を取り合っている。	行政の各担当部署とは相談をはじめ連携して協力関係を築いています。コロナ禍では、マスクや消毒など必要物品の不足がないか連絡をもらっています。介護相談員の来所や市グループホーム連絡会の会議は中止となっていますが、必要に応じて情報共有しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	日中は常に施錠しない、行動の抑制しないよう対応し、身体拘束委員会を設置している。	身体拘束委員会を約2ヶ月に1回開催し、身体拘束の弊害について確認しています。各フロアで職員2名ずつが委員となっており、職員間で注意し合う土壌が育っています。不適切な事例があった場合は、委員会を開いて早急にその職員と面談し、フロア会議で対応して本人の意識を喚起します。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	勉強会等を会議等で伝え、虐待委員会を設置し、みんなで考え注意を払っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	コロナ禍の為、家族会が開催できていないが、個々にご家族等に話を聞いている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	ご入居者及びご家族に重要事項説明書を十分に説明してから契約を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	コロナ禍の為、家族会は開催していないが、随時ご家族との連携を確認している。	コロナ対応で面会が出来ない状況の中、消耗品を届ける家族からや、月毎に郵送する便りを見て電話がある際などに話を聞くようにしています。例年は、来訪時や花見、えん祭り、ワックスがけなどで来所する際に家族から意見や要望を聞いています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月に1度、ユニット会議・全体会議を行い、職員の意見を聴き取り反映している。	日々の業務中や会議、面談などで職員の要望や意見を聞いています。季節の行事や事業所のえん祭りなども職員が考えて実施するなど、職員のモチベーションの向上と運営に反映しています。介助方法について全員で話し合いを重ね、解決した事例もあります。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員とのコミュニケーションをとり、年に2回面接を行い働きやすい環境づくりに努めている。また、人事考課制度を行い目標等を話し合っている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人研修等を行っている。また、面接時に目標・課題を決め行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	グループホーム連絡会を通じて事業所との交流を図った居る。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	コミュニケーションをとり、本人の出来る事・出来ない事等を常にアセスメントを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご家族に様子を伺うと同時に、なんでも話せるような環境づくりに心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人が必要としているもの・ご家族が必要とされているものの要望を受け入れ、ケアプランに入れるとともに、外出支援等にも対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	本人の気持ちを大切にしつつ、残存機能の維持及び認知症の進行を遅らせるために、生活するうえで自分でできる事は自分で行い、家事等一緒に行っている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	常にご家族とも連絡をとり、同じ方向を向き、いつでも電話で会話したりいつでも来られるよう環境づくりを行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	関係が途切れないよう、ご家族と話し合い、馴染みの場所にも行かれるよう努めている。	今年度はコロナ禍で知人や友人の面会は出来なくなっていますが、例年は家族と一緒に墓参りや外食に出かけたり、盆の行事や信仰している場所に出かけています。利用者の要望に沿って馴染みの関りが途切れないように支援しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	共同生活をする中で、お互いに交流を深め、助け合えるような環境づくりを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	いつでも相談できるような環境づくりを行っている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	アセスメントやカンファレンスを行い情報収集し、思いや意向の把握に努めている。	利用者の悩みや不安、家族からの情報以外の思いは1対1で接する機会に多く聞いています。言葉でのコミュニケーションが難しい人からは顔の表情や瞬き、筆談などから知るよう努めています。知った思いは家族にも伝え、かなうように一緒に考えています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人やご家族からの話を聞いてこれまでの暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	アセスメントやカンファレンスを行い情報収集し、思いや意向の把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	カンファレンス・ユニット会議・医療・ご家族等に課題・対策等検討している。	本人の希望と家族の希望を聞き「何が困っているのか、何がしたいのか、何が出来て何が出来ないのか」現在の状況を踏まえた上で、職員はじめ関係者からの意見を考慮してケアプランを作成しています。基本的には6ヶ月、必要に応じて随時見直しを行っています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	ケアプランの実施や生活の様子等を細かく記録に残し、ユニット会議・カンファレンス等を通じてケアプランに反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	美容院や買い物、病院受診等を行い、ご家族が来られない場合は職員と一緒に行ってもらうようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	昨年は地域の防災訓練に参加したり、ポイ捨て無くし隊等に参加していましたが、コロナ禍の為行えていません。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	訪問診療・訪問歯科による体制ができている。ご家族には日頃の経過を月に1度のお手紙にて報告を行っています。	入居時に利用者や家族の要望を確認し、今までのかかりつけ医か協力医を選択しています。内科は月2回、歯科は月4回、皮膚科は随時、訪問診療に来所しています。通院は原則家族対応です。その時の情報は送り迎え時に職員が聞き取り、情報共有しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	週1回の看護師と訪問診療の看護師との連携を密に行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主な医療機関や継続的に入居者がかかっている医療機関の医師・看護師やソーシャルワーカーと情報交換を密に行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	契約時から終末期を迎えた場合の説明をしており、重度化した場合再度医師とご家族と密に連携をとり、終末期に向けた方針を定め看取りケアを行っている。	重度化や看取りについては、契約時に運営規定に基づき本人や家族に説明しています。段階に応じて医師から説明があり、家族や本人の意向を確認して看取りの体制を整えて支援しています。終末期には家族の意思を尊重した支援をしています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	消防署による救命救急をお願いしている。また、マニュアルをみて振り返るようにしている。住所・電話番号は事務所電話の近くに貼り対応している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	今年水害についての訓練を行いました。	年に2回避難訓練を行っています。事業所は河川とも近く、今年度は水害を想定し、1階から2階へ避難する訓練を実施しています。近隣の職員が多く、災害時だけでなく緊急時にも連絡がとれるようにしています。備蓄品は法人が一括管理しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	会議等にて話し合う機会を設け、常に注意している。	毎月のユニット会議では利用者に対する言葉遣いや態度など、自尊心を損ねない介助について話し合っています。声かけもなれなれしくならないように注意しています。排泄の介助などもさりげなく行うなど職員全員で工夫しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日常生活・行事や買い物等、本人の希望を促すようにしたり、自己決定できるような環境づくりを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	できる限り1人1人のペースを大切にしたい介護に取り込むようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	洋服を選んだり、鏡を見て身だしなみやおしゃれができるよう支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	コロナ禍の為、買い物には行かれていませんが、メニュー作り・食事作り・後片付け当入居者と一緒に取り組んでいる。	メニュー作りや食材の購入、調理などは、利用者の力量に応じて職員と一緒にしています。誤嚥や噛む能力などが不安な利用者にはカンファレンスでその人に合った食事形態を工夫しています。イベントの際には特別メニューを用意して食生活に変化をつけています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	状況に応じて、こまめに水分量のチェックを行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後口腔ケアを行っている。磨き切れていない方には、仕上げ磨きを行い、訪問歯科の医師よりアドバイスをいただいています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	個々の排泄パターンを把握し、トイレでの排泄ができるよう心がけています。	利用者の仕草や排泄チェック表から排泄パターンを把握してトイレ誘導をしています。一人ひとりのサインを全職員が把握してあからさまな誘導は避け、さりげなく支援しています。失敗した場合でも周囲に気づかれないように配慮しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	排便チェックを行い、運動や水分、排便を促す食事を行い、難しい場合は、医師に相談し指示を仰ぐようにしている。また、薬の調整を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	曜日を決めて原則的には週2回入浴して頂いている。入浴時間・順番はなるべく入居者の希望により決定している。また、希望によっては曜日変更も行っている。	本人や家族から利用者一人ひとりの習慣や好みを把握して、それぞれ個別の入浴支援をしています。入浴は基本的には週2回ですが、利用者一人ひとりの要望や体調に対応しています。季節感を感じるように柚子湯や菖蒲湯も実施しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	状況に応じて、休息したり 安心して気持ちよく眠れるような支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	医師の受診内容については全員に周知し、処方された薬剤の内容・用途について理解するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	家事や事務仕事等のお手伝いや趣味に応じて支援している。コロナ禍の為、ボランティア活動がない為、職員が考え、皆で楽しめる工作・お菓子作りを行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	コロナ禍の為、自由に行かれないが、散歩等に行かれるよう支援している。	気候や体調に配慮しながら近くの公園や買物に出かけています。広い敷地で気候に応じて外気浴をしています。日常的な外出支援に限らず、本人の思いから懐かしい場所にも出かけています。隣接のデイサービスとはいつも利用者同士が交流しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	コロナ禍の為、なかなかお金を使う機会がないが、コンビニエンスストアで時々買い物を行いご自分で支払いを行えるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話や手紙のやり取りができるように支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	できる限り、不快・混乱を招かないように拝領している。また、季節にあった飾りをみんなで作り飾っている。	リビングは空気清浄機やエアコン、加湿器などで適切な温湿度を確保し、明るく清潔です。共有部分の一部に個々にくつろげるスペースを設けたり、利用者の体調に応じて座る場所を手すりの近くに変えたりしています。広い廊下の壁面には四季ごとのイベントの写真を掲示しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	トラブル・混乱がない限り、自由に席に座って頂けるように努めている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご本人・ご家族に相談し、使い慣れた物を持ってきていただき、1日でもはやく慣れて頂けるよう努めている。	居室にはクローゼットやエアコン、照明などが設置されています。利用者や家族は職員と相談しながら安全に配慮した上で本人の好みや馴染みの品々を持ち込んでいます。使い慣れたタンスや家族との写真などを置き、居心地の良い居室となっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	個々の自立した生活ができるような環境づくりを行っている。		

事業所名	グループホームえん
ユニット名	2F さざん

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/>	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/>	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	藤沢のえんの理念、3つのE nを大事に！を会議の際唱和し同じ方針に向かっている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	自治会に加入している。昨年はコロナ禍の為行事等中止されている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	随時近隣の方、介護支援事業所等から相談を受けている。昨年はコロナ禍の為中学生の職場体験中止となっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	1回は行っていましたが、コロナ禍の為開催できていない。また、ご家族からの意見交換の場でもあったが、随時確認をしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	コロナ禍の為、グループホーム連絡会は開催していないが、何かあった際は連絡を取り合っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	日中は常に施錠しない、行動の抑制しないよう対応し、身体拘束委員会を設置している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	勉強会等を会議等で伝え、虐待委員会を設置し、みんなで考え注意を払っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	コロナ禍の為、家族会が開催できていないが、個々にご家族等に話を聞いている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	ご入居者及びご家族に重要事項説明書を十分に説明してから契約を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	コロナ禍の為、家族会は開催していないが、随時ご家族との連携を確認している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月に1度、ユニット会議・全体会議を行い、職員の意見を聴き取り反映している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員とのコミュニケーションをとり、年に2回面接を行い働きやすい環境づくりに努めている。また、人事考課制度を行い目標等を話し合っている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人研修等を行っている。また、面接時に目標・課題を決め行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	グループホーム連絡会を通じて事業所との交流を図った居る。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	コミュニケーションをとり、本人の出来る事・出来ない事等を常にアセスメントを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご家族に様子を伺うと同時に、なんでも話せるような環境づくりに心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人が必要としているもの・ご家族が必要とされているものの要望を受け入れ、ケアプランに入れるとともに、外出支援等にも対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	本人の気持ちを大切にしつつ、残存機能の維持及び認知症の進行を遅らせるために、生活するうえで自分でできる事は自分で行い、家事等一緒に行っている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	常にご家族とも連絡をとり、同じ方向を向き、いつでも電話で会話したりいつでも来られるよう環境づくりを行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	関係が途切れないよう、ご家族と話し合い、馴染みの場所にも行かれるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	共同生活をする中で、お互いに交流を深め、助け合えるような環境づくりを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	いつでも相談できるような環境づくりを行っている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	アセスメントやカンファレンスを行い情報収集し、思いや意向の把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人やご家族からの話を聞いてこれまでの暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	アセスメントやカンファレンスを行い情報収集し、思いや意向の把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	カンファレンス・ユニット会議・医療・ご家族等に課題・対策等検討している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	ケアプランの実施や生活の様子等を細かく記録に残し、ユニット会議・カンファレンス等を通じてケアプランに反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	美容院や買い物、病院受診等を行い、ご家族が来られない場合は職員と一緒に行ってもらうようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	昨年は地域の防災訓練に参加したり、ポイ捨て無くし隊等に参加していましたが、コロナ禍の為に行っていません。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	訪問診療・訪問歯科による体制ができている。ご家族には日頃の経過を月に1度のお手紙にて報告を行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	週1回の看護師と訪問診療の看護師との連携を密に行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主な医療機関や継続的に入居者がかかっている医療機関の医師・看護師やソーシャルワーカーと情報交換を密に行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	契約時から終末期を迎えた場合の説明をしており、重度化した場合再度医師とご家族と密に連携をとり、終末期に向けた方針を定め看取りケアを行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	消防署による救命救急をお願いしている。また、マニュアルをみて振り返るようにしている。住所・電話番号は事務所電話の近くに貼り対応している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	今年は水害についての訓練を行いました。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	会議等にて話し合う機会を設け、常に注意している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日常生活・行事や買い物等、本人の希望を促すようにしたり、自己決定できるような環境づくりを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	できる限り1人1人のペースを大切に した介護に取り込むようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	洋服を選んだり、鏡を見て身だしなみやおしゃれができるよう支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	コロナ禍の為、買い物には行かれていませんが、メニュー作り・食事作り・後片付け当入居者と一緒に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	状況に応じて、こまめに水分量のチェックを行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後口腔ケアを行っている。磨き切れていない方には、仕上げ磨きを行い、訪問歯科の医師よりアドバイスをいただいています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	個々の排泄パターンを把握し、トイレでの排泄ができるよう心がけています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	排便チェックを行い、運動や水分、排便を促す食事を行い、難しい場合は、医師に相談し指示を仰ぐようにしている。また、薬の調整を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	曜日を決めて原則的には週2回入浴して頂いている。入浴時間・順番はなるべく入居者の希望により決定している。また、希望によっては曜日変更も行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	状況に応じて、休息したり 安心して気持ちよく眠れるような支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	医師の受診内容については全員に周知し、処方された薬剤の内容・用途について理解するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	家事や事務仕事等のお手伝いや趣味に応じて支援している。コロナ禍の為、ボランティア活動がない為、職員が考え、皆で楽しめる工作・お菓子作りを行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	コロナ禍の為、自由に行かれないが、散歩等に行かれるよう支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	コロナ禍の為、なかなかお金を使う機会がないが、コンビニエンスストアで時々買い物を行いご自分で支払いを行えるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話や手紙のやり取りができるように支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	できる限り、不快・混乱を招かないように拝領している。また、季節にあった飾りをみんなで作り飾っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	トラブル・混乱がない限り、自由に席に座って頂けるように努めている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご本人・ご家族に相談し、使い慣れた物を持ってきていただき、1日でもはやく慣れて頂けるよう努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	個々の自立した生活ができるような環境づくりを行っている。		

2020年度

事業所名 グループホームえん

作成日： 令和3年 6月 21日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1		コロナ禍の為、外部との接触が少なく 入居者様と距離が近くなりすぎてしまっている。	初心の気持ちを忘れずに、入居者様・ご家族等の気持ちを大切に行います。	普段からの接遇に気を付け、職員一同声かけ等行い、会議等での振り返りを行います。	12ヶ月
2		湘南乃えんの理念の内容等、理解できていない。	湘南乃えんの理念の理解。	研修等で振り返りを行います。	12ヶ月
3		職員確保	離職率の維持に努める。	求人募集・職員紹介等を行い、人材確保に努めます。	12ヶ月
4		入居者様確保	退居されたら、速やかに次の入居者様が入居できるよう努めます。	常に見学・待機をつくれるように努めます。	12ヶ月
5					ヶ月